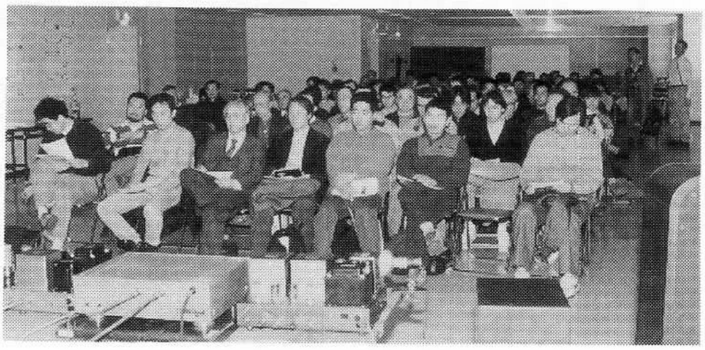
現代的設計による真空管アンプの音質をアピール

試聴会開催・準備体験レポート

2000年2月11日　住友生命東神田ビル

黒川達夫 Kurokawa Tatsuo

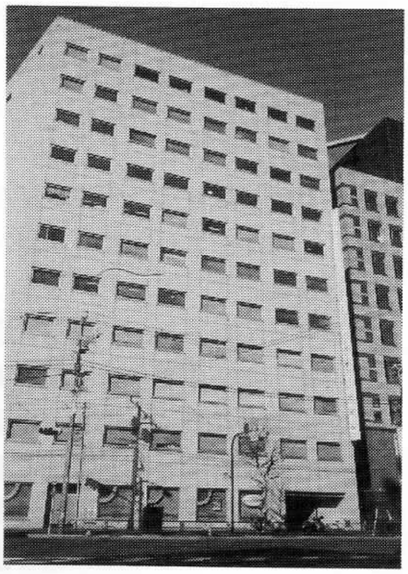


はじめに

このところ自主的試聴会が各地で開催されているとのニュースです．小生もこの2月11日に，東神田(秋葉原地域)で自己主催の試聴会を初めて開催しました．自分らもやってみたいという方のご参考に，試聴会の報告を兼ねて体験をご紹介します．

試聴会開催の動機

MJ誌で発表させていただく真空管アンプが増えるにつれ，アンプが音を出す機器であることから，読者の方々に何らかの形で実際の音を聴いていただき，またアンプ内部の実装などをご覧いただく術はないかと，折に触れ考えておりました．いくつかの試聴会にゲスト参加の機会をいただきましたが，あまり自分で働きかけたことはなく，試聴会をやってみては，という気持ちになったのは，世に言う「いよいよ年齢になった」ためかもしれません．



黒川アンプ単独試聴会の会場となった住友生命東神田ビル．JR秋葉原駅から徒歩10分という好条件．このビルの最上階11階の会議室で開催の運びとなった

場所選びは根気よく

希望としては約100名の収容でアクセスの良いところ，また借料の個人負担可能なところとなります．市販資料では，公共事業体のホールが最も経済的で，午前・午後で3万円から5万円くらいです．しかし種々制約もあり，たとえばその市町村住人の申し込みが必要な場合があります．営業のホールでは午前・午後で最低限6万円から10万円以上となります．またインターネットで市町村のホームページなどに公共ホールが紹介されているので，気長に探せば会場候補は意外にあることがわかりました．しかし小生の場合，東京在住のため自治体関係は望み薄です．また地方に出向くには機材運搬の負担が大きく，一時は暗い前途となっていました．

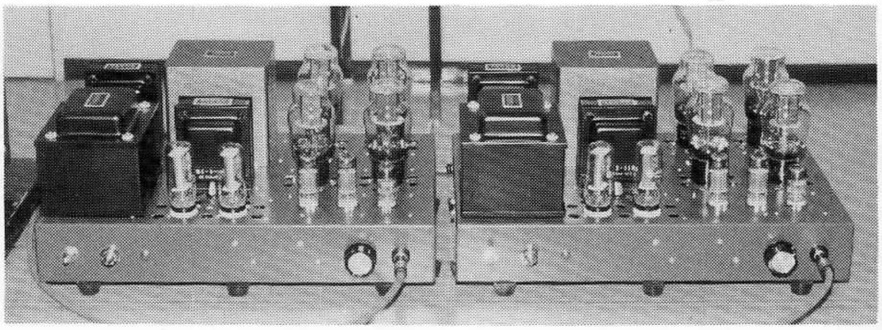
ところが希望は持ち続けるものです．何人かに話をしていたところ，保険会社にいる知人が，保険関係の企業は各所に会議室を持ち，しかも週末は空いていることを教えてくれました．秋葉原のすぐそばにも最大150人収容の会議室があるということで，これはお願いをしたら試聴会ができるかな，と思い始めたのです．

会場貸し出しのお願い

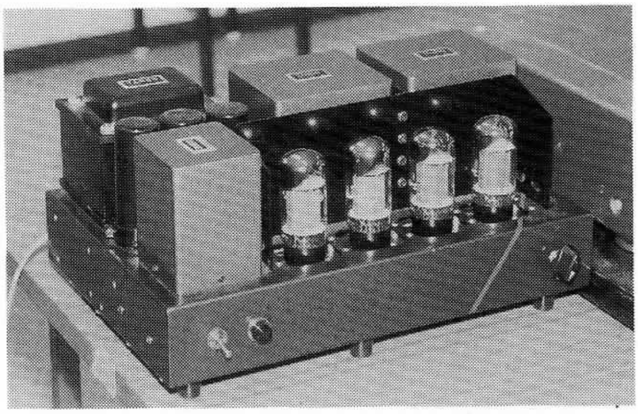
ほどなく住友生命の支部責任者に，会場貸し出しのお願いにあがりました．秋葉原から歩いて10分ほ



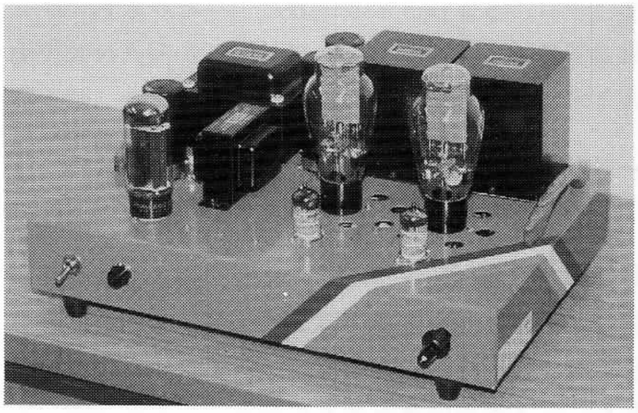
本誌で現代的設計法によって真空管アンプに新風を吹き込んでいる黒川達夫氏．初めての単独試聴会とあって，いやがうえにもテンションは上がる



本誌近号で発表予定の2A3パラプッシュモノーラル．来場者の2A3の音色イメージを払拭する，シャープで高分解能，力強い再生音を披露



3月号発表の6CA7 ULプッシュプル．SG巻線独立型OPTと出力段位相補正回路の採用で，40W強のパワーと広帯域特性を誇る



黒川氏著『はじめての真空管アンプ』(誠文堂新光社) 収載の300Bシングル．園まりの歌声がとても愛らしかった

ば良かったのでは，と反省しています．そうすれば，遠慮がちに出された同社からのアンケート協力要請なども，唐突な感じが避けられたように思うのです．

今後の試聴会，とくに非商業的に借りるケースに対する教訓です．一方でゲストの木村哲氏には，小生から「中古の元高級部品」を差し上げました．しかしこれは氏にとって「得るところ」になったかどうか，自信はありません．

ご来場者アンケートから

将来の改善に向かい，ご来場者の意見は貴重です．来場者総数は主催者を除き97名で，73名 (75.3%) のご回答です．

(1) 年齢分布

最年少11歳 (父子連れ)，最年長69歳で，60.3%が40～59歳の分類に入ります．今後もご一緒にこの趣味を楽しんでいけると喜んでいます．

(2) 試聴会を知った方法 (複数回答)

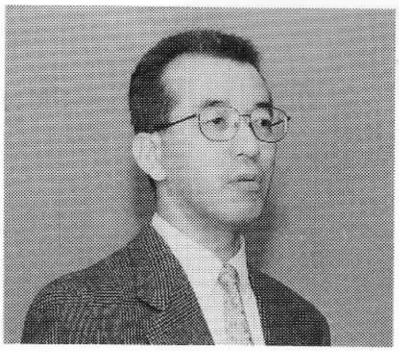
MJ誌が51%で最も多く，続いて店頭ポスターが29%，また小生からのご案内は19%となりました．インターネットは17%の方が挙げています．『MJ無線と実験』が最も強力なメディアで，層も厚いことがわかります．

(3) 会場の音響効果

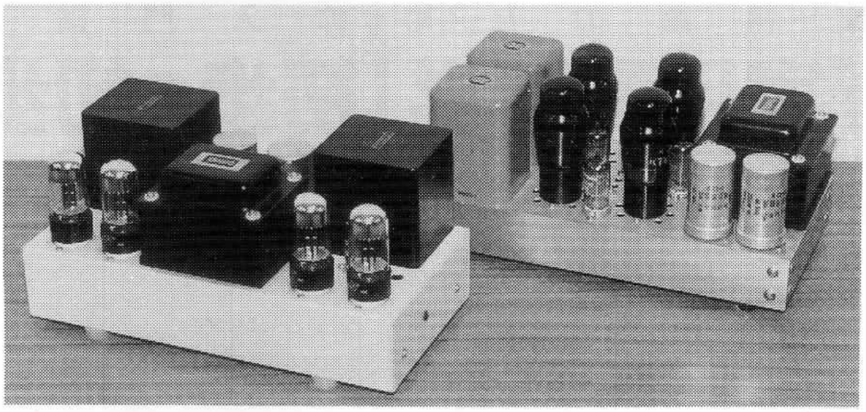
「良い」: 22%，「アクセプタブル」: 51%，「悪い」: 15%，「回答なし」: 14%となりました．「アクセプタブル」以上が73%というご回答は，ご来場者の温かいまなざしゆえと思います．

(4) SPなどの使用機器類，ソフトなど

使用スピーカーなどは小生の常用品です．「適切」とされた方が48%，「普通」が43%で，特別なものを使わない趣旨は来場者に受け入れられたようすです．ソフトの選択は「多様な音源」の気持ちで選びましたが，「適切」とされた方が49%，「普通」とされた方が43%で，「悪い」との方も2名 (3%) いました．今後も勉強を続けたいと思います．



ゲスト参加の木村哲氏．本誌読者であることはもちろん，インターネット上で自作真空管アンプの充実したホームページを開設



木村氏のデモ参加は，6AH4GT プッシュプル（左）と 6F6 プッシュプル（右）．全段差動プッシュプル回路を採用し，出力が一桁とは思えない力強い再生音を響かせていた

(5) 試聴対象アンプに対する感想

主観的記述であり，その定量的解釈は極めて難しいところがあります．今回は，感想に一定の方向性（たとえば，表現や程度は別として，A＞B という一定の傾向）は見いだせませんでした．2A3 pp，6CA7 pp，300B シングル，木村氏の 6AH4 pp，6F6 pp それぞれにベストとされる方がいます．

このような結果の解釈には，「音楽を聴く，音を聴くということは優れて人間的な営みであり，したがって同一の音源が対象であっても，その評価や好悪は評価を行う当人の音との関わり，アンプ製作経験の有無，試聴音楽に対する好悪，当日の会場環境，さらにはその瞬間の体調など，機器やソフト以外の要因から自由ではあり得ない」という，小生の経験則が助けになるように思います．もともと善し悪しや勝ち負けを持ち込む趣旨はなく，好みの傾向を教えてほしかったのですが，図らずも感想の集計は上述の考えを支持する結果となりました．

試聴会の財政的側面

直接支払った費用を以下に示します．

(1) 配布用パンフレット，ポスター，地図，アンケート用紙等，用紙とコピー費用　約10,000円
(2) 郵便・連絡費　約2,000円
(3) 協力者交通費等／3 人分　約15,000円
(4) 当日の弁当10折　10,000円
(5) スクリーン（塩ビ・シート）　約2,000円
(6) スライド製作費用　約3,000円
(7) ウーロン茶，紅茶，コーヒーなどの飲み物，紙コップ代など　約4,000円



今回の試聴会でお世話になった住友生命の清水あつ子さん

(8) 文房具（ガムテープ，マジック等）　2,000円
合計約48,000円．

これに有料道路料金や打ち合わせ費用などの間接費が加わり，個人負担は約 5 万円強です．さらに住友生命負担分（筆者の推計で約 6 万円），MJ 負担分（同約 5 万円），また木村哲氏負担分を考えると，やはり相当の費用が掛かることがわかります．収入はありません．

今後の発展に向けて

以上，試聴会を考えている読者のご参考に，主観客観取り混ぜですが実例をご紹介しました．なお，このような催しに継続性と発展性を持たせるため，たとえば郵便・連絡費や一部紙代などの実費相当を，ご来場者にご負担願うことも一法かと思います．また今回はまずまずでしたが，特定の人や団体に負担が集中しない配慮が大切と感じました．

末筆になりましたが，このたびの試聴会開催に際し，住友生命保険相互会社，MJ 編集部を始め，多数の方々のお力添えをいただきました．誌上を借りて厚く御礼申し上げます．またご来場の皆様，ありがとうございました．